

コミュニティ・スクールの導入
～教職員が地域連携に前向きになるために～
小林大介 U20C219E 学校経営コース（新潟市立白新中学校）

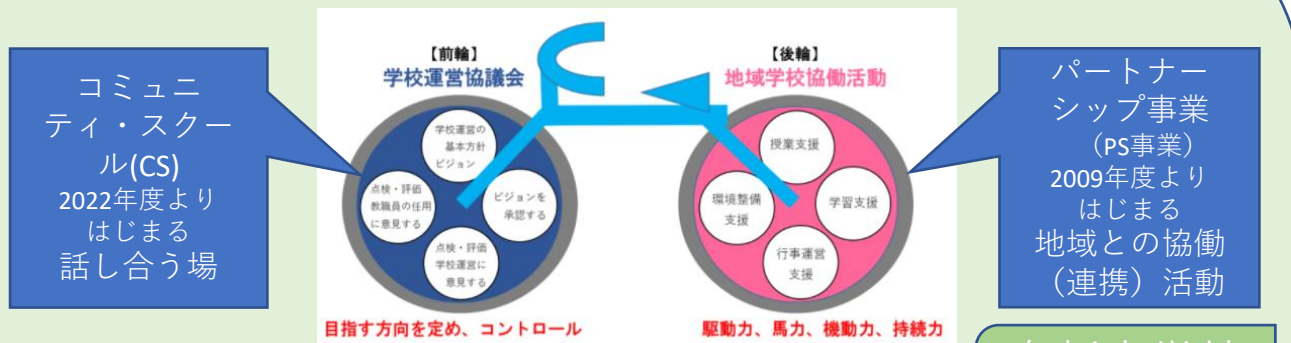
1 問題・目的

2022年度に新潟市のすべての公立学校にコミュニティ・スクールが導入



- ・コミュニティ・スクールってなんだ？
- ・これまでのパートナーシップ事業と何が違う？
- ・新潟市はコミュニティ・スクールで何を目標しているの？
- ・地域連携ってなかなか大変？！

新潟市が説明する
コミュニティ・スクールとパートナーシップ事業との関係



異動や仕事が忙しくなり、関われなくなる

しかし

白新中学校
では

パートナーシップ
事業スタート時
(2009)は活発な活
動が行われた(学
校・地域に核とな
るリーダーがいた)

衰退

多くの人
が気軽に
関われる
活動

CSによ
って生徒
が成長

持続可能なCSにしたい

教職員がCSに
前向きに

地域の核となる
人をメンバーに

2 実践

「教職員がコミュニティ・スクール（地域連携）に前向きになるために」

- ①職員研修で目標・地域連携の良さを共有する
- ②総合的な学習の時間の計画を地域との関係が明確になるよう再編し、生徒の成長を実感できる学習にする

①職員研修(2021.1)



・自己
実現
・やり
抜く

目標（教育目標・目指す生徒の姿）、地域連携の良さを確認・共有した。

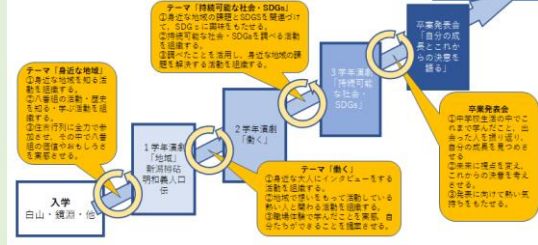


②総合の全体計画を再編



白新中学校総合的な学習の時間

白新中学校の総合的な学習の時間は、それぞれのチームのテーマを探究し、学んだことを実際に行動に移す中で、様々な人と出会ってその生き方を学ぶことを通して、自分の生き方を見つめ直し、これからの生活に対して決意をもつことをめざっています。



学習の中で地域の人と関わることで生徒が段階を追って成長するように再編した。



憧れ（モデル）となる大人との出会い

生徒を育てる文化（共通の言葉）

大きく再編した3ターム地域課題解決学習が進行中(2011.1~)

※CSのしくみよりも目的を重視

※生徒の成長を実感できるように

3 成果・課題

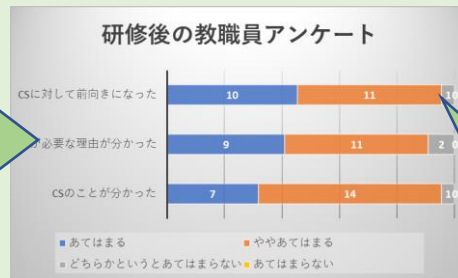
職員が活動の目的を共有する場をもつことは大切

だが自分がやることに対してはまだ消極的。



- ・総合の時間の実践を継続して行う
- ・声をかけ合うことを大事にする

職員研修後のアンケート (2021.1)



「前向き」肯定的評価高くなった

総合学習の取組状況

新しい学習に対して、教職員の理解や意欲が十分高まっていない

一回の研修だけでなく、日常的に伝えること大切